

震災関連記事のみの抜粋です

中外雑記

神社界

救援物資搬送に協力

●兵庫県南部地震の被災者救援のため各社寺で募金が始まっているが、稲毛神社（市川緋佐麿宮司、神奈川県川崎市川崎区）崇敬会の婦人部・青年部でも義援金を集めている。この他、地震発生から三日後の二十日には、川崎市青年会議所がトラック二台で救援物資を現地へ搬送。また県の神道青年会がウエットティッシュ、紙おむつなどの救援物資を輸送するが、同神社ではこれらに資金面で支援する予定だ

臨黄

臨黄被災地でぜんざい炊き出し

●妙心寺派 兵庫県南部地震被災者支援に関しては本派でも、宗務本所サイドの募財活動とは別に各地区で様々の自発的な動きが出ている。本欄既報の通り、いちはやく宗務本所職員有志が京都・四条河原町に雲水姿で立って募金を呼びかけ、名古屋・徳源僧堂などでも雲水が市内を托鉢して歩いた。本所有志の托鉢には延べ七十六人が参加、百万円以上の浄財が集まったという

▽この他にも、愛知西教区（一色宏襄所長）では管内約二百三十カ寺の住職、寺庭、花園会員、無相教会会員に呼びかけて被災者救援の募財を呼びかけた。三百万円程度をメドにしているとのこと

▽さらに本派を中心に臨済各派寺院で組織する薪流会（総裁＝大井際断方広寺派管長、運営委員長＝横江令澄養徳院住職）は二月七日、西宮市の阪急西宮北口に近い平木中学校と同小学校で被災者のために“ぜんざい”の炊き出しを行なう。同会は震災直後から何らかの救援活動を検討してきたが、西宮出身で現地の事情に詳しい同会の保子令謙雲龍寺住職（岐阜県可児市）が地元と相談して温かい“ぜんざい”で不自由な生活を強いられている被害者を慰めることにしたもの。当日は会員や寺庭ら二十四人が避難所になっている平木中・小学校に赴き、午前十時から午後三時までの間に約千人分の“ぜんざい”をつくって振る舞う。使い捨てカイロや缶詰など、避難所生活に必要な物資も持参して寄付する予定。また、同会では三月一日、名古屋駅前や名古屋の繁華街・栄の街頭に立ち、震災被災者救援の募金を行なう計画だ

▽こうした宗門内の自発的な動きに対し、宗務当局の動きが鈍かった、という印象は否めない。こんかいの大震災のような非常事態に際しては宗制の規程に則ったマニュアル通りの措置だけではなく“超法規的”な対応もとれるような柔軟さが必要なはず。教団として初動態勢を整えるのが遅れたのは、どこに原因があったのか、宗門として広く被災者一般のために為し得ることは何か―禅者個々にはその境涯、見解、力量に応じた行動があるだろうが、問題は教団という、よりいっそう社会性を問われる組織の運営のあり方である。これに関してはやはり、重い課題が残されたようだ

▽既報の通り、羽賀文圭総務部長と宮田正勝花園会本部長は二十三日から二十五日まで、兵庫教区宗務所の姫路・東光寺を拠点に被災地の同教区第一部、第二部を被災見舞いと被害状況調査のために訪れた。第一部は宮田本部長と大西道裕所長ら四人、第二部は羽賀部長、川本昭道宗議会議員ら四人が担当した。この調査結果と各寺院からの報告をもとに一派寺院の被害状況を正式にまとめる方針

継孝院などに復興援助金

●**相国寺派** このたびの大震災では大隅厳道宗議会議長の自坊、神戸市垂水区の継孝院が大きな被害を受けた。同院からの報告によると新築したばかりの山門の土台が崩れ、門が傾いたほか、本堂、庫裡もかなり損傷したという。この被災に対して大本山相国寺は復興援助金として一千万円を贈ることを決定した。末寺援助資金から拠出するもので、この他、大阪市天王寺区の天正寺（山田無禅住職）にも見舞金として五十万円が贈られた
▽鹿苑寺、慈照寺はこのほど京都仏教会を通じ、震災被災者義援金を日本赤十字京都支部に寄託した。別項記事の通り、江上泰山、荒木元悦両執事長らが京都仏教会を代表して、同支部を訪ね、谷勝利事務局長に義援金を手渡した。また、本山としても一派寺院に対する復興援助の他に、檀信徒や一般の被災者に対する何らかの支援を検討中

新宗教

神戸灘支部が倒壊

●**解脱会** 兵庫県南部地震で激震が襲った神戸市内に七カ所ある同会の支部は、六階建てのビルが倒壊した神戸灘支部（中岡登美尾支部長）を除き、建物への被害はさほど深刻ではなかったようだ。被災地の会員の安否については充分つかみきれていない状況。本部からは岩田敏一内務局長と青山佑次理事の二人が二十二日に現地入りし、市内の各支部を見舞った

▽火災の犠牲者を数多く出した長田区にある神戸中央支部（中山数一支部長）は、外壁がところどころ剥落したほか、石造の供養塔が倒れ、隣の子育て地蔵尊は首の部分がもげ落ちた。支部周辺は、細い路地を挟んで密集する古い木造家屋が軒並み倒壊して無惨なありさま。支部は築三十五年の木造建築で、地震の揺れには辛うじて持ちこたえたものの、玄関部分が歪んで出入りが不能になってしまった。中山支部長は、復旧のめどは立たない、といい、「今後何をするかは会員の消息を確認してから」と同支部が擁する六百人の会員の安否を心配した。今のところ、負傷して入院している人はいるが、死者が出たとの連絡は入っていないようだ。

天台

震災犠牲者に枕経を

●**天台宗** 延暦寺では、十八日に続いて二十五日の午後三時から、延暦寺阿弥陀堂で兵庫県南部地震の震災犠牲者追悼法要を、梅山圓了座主を導師に、一山住職が随喜して営んだ。法要前日の二十四日に現地入りし、慰問・視察を行なった杉谷義純宗務総長と小林隆彰延暦寺執行も参列した。内陣前卓には、「兵庫県南部地震犠牲者霊位」と記された真新しい位牌が置かれた。一日千人単位で増え続けた犠牲者が五千人を超したことで再度法要を営むことになったもの

▽二十四日現地を訪れた杉谷宗務総長は、「きのう災害地を見舞ってきましたが、テレビなどで見るのとは違い、目に余る惨状に驚きました。しかし、お寺に被害を受けながらも地域の被災者を受け入れてお世話されている寺族、檀信徒の方々の姿に頭が下がる思いでした。しかし、皆さん前向きで復興に向かって立ち上がりの意欲が見えて有り難く思いました」と語った。また、小林執行は、「震災の翌日の十八日に回向法要を勤めさせていただきましたが、『犠牲者の方々に枕経を』という気持で法要を勤めさせていただきました。その後も亡くなられた方は増え続けており、再度回向をしてお慰め申し上げようということになったのです。これからも随時こうしたかたちで法要を捧げたく思っております。また、できるだけ早く現地でも法要を執り行ないたいと思っております」と語っていた。

状況に応じて柔軟な対応

▽兵庫県南部地震では、教区内寺院を拠点にした救援活動が本格化している。兵庫教区の災害救援本部（本部長＝上中善信宗務所長）を中心として、兵庫仏青のメンバーは二十三日から兵庫区の能福寺で物資の仕分けや配送作業に従事した＝写真【写真は省略】。二十三日には、軽トラック三台で神戸市、芦屋市の被災五カ寺に物資を配送した。能福寺では有志僧侶や民間ボランティア団体による炊き出しが続けられている。また、二十日から二十二日までは天台仏教青年連盟の前代表・清田寂天氏が現地視察のため滞在した

▽被災地の場所によって救援活動の質や物資の量にかなりばらつきがあり、救援本部事務局では各避難所を回って何が最も必要とされているかを調査、状況に応じて柔軟な対応で救援が進められている。

震災の大仏前で回向法要

▽「薄暗がりの中本堂を見たら、ああ、建物は助かったと思ったが、よく見たらもうあかんかった」。兵庫大仏で名高い兵庫区の能福寺。震災直後、寝間着のまま外に飛び出した雲井世雄住職の目は、震度7の激震で崩壊寸前の本堂にくぎ付けになった。足元ではふだん使用していない井戸の水が逆流して噴き出していた。建物は少し見た限りでは分からないが、次に激しい余震が襲えば倒壊は免れない。月ノ輪御陵の九條家の拝殿を移築した由緒ある建造物は、取り壊しが決まった

▽七百軒の檀家の安否が気かりで、境内売店の店員で、実印や通帳を預けてもいいほど信頼していたという七十代の男性の檀家二人のうち、一人の死亡が確認された。「何であんな信心深い人が。仏さん、なんとかしてくれへんかったんか」。雲井住職は肩を落とし、無念さを滲ませる。また、もう一人は消息が分からない。この男性は町内会長なので、「きっと被災した町の収拾に忙しくて、連絡を取りたくても取れない状況なのだろう」と語っていた

▽住職は二十三日午後、犠牲者の回向のため、無傷だった境内の毘盧遮那大仏を仰ぎ、震災犠牲者の回向法要を営んだ。高さ十六メートルの青銅製の坐像だけが、震災前と変わらぬ姿のまま、死者を悼む香に煙った。

叡山学院生の自主的な声で

▽叡山学院では、二十五日兵庫県南部地震被災者のための托鉢を実施し、当日に集計した募金五十五万五千二百一円を大津NHKに託した

▽叡山学院で寮生活を送っていた神戸市兵庫区の能福寺と善光寺（会下山町）の院生二人は、十七日に自坊へ出発した。翌日になっても二人からの連絡はなく、心配になった伊藤進傳寮監は、十九日に一人で食料を背負い、尼崎から自転車で両寺を目指した。その後「自分たちも行きたい」という自発的な寮生の声が上がリ、現地の危険な状態を説明する伊藤寮監の声の中、寮生の四人は伊藤寮監とともに、大雨の二十二日に神戸に救援に向かうことを決行した。現地で作業できる時間を少しでも増やそうと、二班に分かれて早朝出発。帰りには持って行った雨合羽も置いてきたという。また、再度現地を訪れ、救援活動を行なう計画もあるようだ。

定期宗会に向けて

▽三月七日から五日間にわたって開かれる定期宗会を控え、一月二十五日に制度調査審議会、同二十六日に教学財団理事会、同月三十日に寺院後継者対策委員会が開かれるなど諸会議が続いている。また、宗会の予算案など内示

の常任委員会も二月九、十の両日に開かれる。天台宗海外伝道事業団理事会が一月二十九日東京で開かれ、荒了寛開教総長をまじえて本年度別院の事業、運営などについて協議された。それに備えて二十一日に日本に帰った荒氏は、二十二日に神奈川県幸福寺（須藤大元住職、川崎市川崎区宮本町二ノ二）で勤められた本堂、客殿の落慶法要に随喜した

▽同法要には、杉谷義純宗務総長も随喜し、法要に随喜した寺院住職から「震災犠牲者を何とか助けたい」と、兵庫県南部地震の義援金を受け取った。杉谷宗務総長はその心に感激したと語っていた。

曹洞

近畿管区に対策本部

●宗務庁の課長はじめ職員が高祖降誕会の二十六日、都内十カ所で行なった兵庫県南部地震義援金の街頭募金は、午後一時から三時までの二時間で総額九十万三千三百二十三円にのぼり、全額がNHKに寄託された。宗務庁職員の自主的行動として托鉢募金の実施を決定したもので、宗務庁で降誕会と被災物故者慰霊法要を営んだ後、幟を立てて街頭に繰り出し、各課の課長がリーダーとなり、グループごとに新橋、銀座、渋谷、新宿、東京、池袋、上野の駅周辺で募金を呼びかけた＝写真【写真は省略】。有田恵宗人事部長も東京駅で一緒に募金に立った

▽宗務庁二階のエレベーター乗降口の壁に、現地調査で撮影した被災寺院の写真の一部が貼られている

▽近畿管区教化センターの運営委員会が二十七日、京都府向日市の慶昌院で開かれ、宗務庁から渡辺泰峯教化部長が出席した。管内の宗務所長が集まるこの機会を利用して、兵庫震災の救援対策等について協議され、管区に救援本部を設置することなどが決まった。すでに各宗務所は救援態勢をとっているが、宗務庁と連携する拠点として、近畿管区に救援本部を設置し前線への後方支援を展開する。席上、新管区長に奈良県の雨宮義幸所長が選出された▽宗務庁は十九日から課長・書記を大阪に派遣し、二十日から大阪・兵庫の被災寺院の見舞いと現地調査を開始したが、柔軟性に欠ける内局の体質や対応の混乱も露呈している。宗務庁の入り口受付に「曹洞宗阪神大震災災害対策本部」の張り紙が出ており、全国寺院に発送した義援金受け付け開始の文書は本部長・伊東盛熙宗務総長の名前が使われているが、二十七日の段階で対策本部の具体的な人事は発令されていない。いわば庁内職員が総力で対応しているだけで、責任分担や指示系統が明確でなく、伊東宗務総長と佐々木孝一総務部長が居なければ決めるべきことも決まらないという状態だ。広報活動も佐々木総務部長が情報管理しているためスムーズに流れず、職員は外部との連絡に追われながら、上司の顔色をうかがってピリピリしている

▽現地では各地の曹洞宗青年会や宗務所職員、曹洞宗国際ボランティア会（SVA）のスタッフらが敏速な救援活動を展開している。SVAは現地対策本部を被災寺院の兵庫区・八王寺（志保見道元住職）に開設し、兵庫区、長田区の四カ所の避難所を重点的に救援物資の搬送・配布、炊き出し、各種の補助作業、在宅老人への援助などを展開。永平寺から派遣された六人の雲衲は火葬場で不眠不休の読経を行なっている

▽宗務庁はまだこうした救援活動への後方支援態勢をとるに至っていない。現在までに三百五十人をボランティア登録し、宿舎を確保し次第、現地へ送り込む態勢をとっているSVAとの連携プレーを望む声は強いが、現在のところ宗務庁はその気がない様子で、佐々木総務部長は「ボランティア会は独自に募金をやっている。宗務庁は宗務庁で北海道南西沖地震の時の経験に基づいてやる」と言っている。

法華

最新の地震被害状況

●日蓮宗 現時点で判明した兵庫県南部地震の被害状況の全容は次のとおり

▽神戸市須磨区＝護国寺（本堂・庫裡の瓦がずれ、墓石が倒壊）

▽神戸市長田区＝大圓寺（本堂屋根にひびが入り、瓦、内壁も落ちている。駐車場にもひびが入る）
▽神戸市長田区＝泰信寺（諸堂の瓦、壁が落ちて、ひびが入る）
▽神戸市長田区＝妙覚寺（諸堂の屋根が少々傷み、瓦、壁が落ちる）
▽神戸市兵庫区＝法連寺（本堂・庫裡が全壊）
▽神戸市兵庫区＝妙法華院（三階建て境内建物にひびが入り、危険な状態。塀も倒壊）
▽神戸市兵庫区＝招慶院（本堂の壁が少々傷んだ程度）
▽神戸市兵庫区＝妙行寺（瓦、玄関前の壁が落ちる）
▽神戸市兵庫区＝妙法寺（諸堂にひびが入る）
▽神戸市兵庫区＝行守寺（本堂・庫裡が全半壊）
▽神戸市兵庫区＝妙徳寺（本堂・庫裡が全壊、福田淳弘住職はけがをし、住職夫人は骨盤骨折で入院）
▽神戸市北区＝妙見寺（妙見堂が傾いたほか、客殿に被害）
▽神戸市北区＝妙信寺（建物にひびが入り、墓碑が倒れる）
▽神戸市中央区＝宇治山寺（仏具等が破損）
▽神戸市中央区＝本寿寺（本堂に亀裂、境内建物が倒壊）
▽神戸市中央区＝本妙院（本堂の壁が落ち、浄行堂が全壊）
▽神戸市灘区＝教福寺（仏具等が破損）
▽神戸市灘区＝本泉寺（本堂の壁が落ち、宝塔が倒れる）
▽神戸市灘区＝法隆寺（本堂、納骨堂が全壊、塀も倒れるが庫裡はどうか住める状態）
▽神戸市灘区＝醍醐寺（現在三階建ての建物を建築中だったが、これに被害はなかった）
▽神戸市東灘区＝玉持院（山門倒壊、本堂の壁にひびが入る）
▽神戸市東灘区＝妙見寺（本堂全壊、朝勤中だった岩田随教住職が下敷きになって死去）
▽西宮市＝浄願寺（本堂、諸堂が全壊）
▽西宮市＝妙龍寺（本堂の壁にひびが入り、瓦が落ちる）
▽尼崎市＝長遠寺（県の重要文化財の客殿が全壊し、国の重要文化財の本堂も傾き、壁が落ちる）
▽尼崎市＝中正院（本堂の屋根が半壊）
▽尼崎市＝廣済寺（山門、妙見堂、鳥居が倒壊し、墓石が傷む）
▽尼崎市＝妙隆寺（本堂にひびが入ったため、滋賀県の別院に避難）
▽尼崎市＝妙昌寺（本堂に亀裂が入る）
▽伊丹市＝本泉寺（本堂にひびが入り、塀が落ちる。また墓石の七割が倒壊）
▽宝塚市＝安国寺（本堂にひびが入る）
▽宝塚市＝天光院（山門金壊、本堂の屋根が落ち、庫裡にひびが入る。墓石倒壊）
▽明石市＝妙栄寺（山門全壊、本堂の屋根が傷む。墓石は全壊）
▽明石市＝本立寺（塀が倒れ、庫裡の屋根が落ちる。墓石は五割が倒壊）
▽明石市＝本松寺（本堂の屋根が破損し、庫裡・山門が傷み、塀が倒壊）
▽明石市＝大聖寺（本堂の屋根が破損し、山門・塀が倒壊）
▽明石市＝立正寺（本堂の屋根が少し落ち、墓石倒壊）
▽三木市＝本要寺（塀が少し破損）
▽加東郡東条町＝浄光寺（二十五日現在、連絡がとれない）
▽加東郡東条町＝久遠成寺（二十五日現在、連絡がとれない）
▽三田市＝妙三寺（山門、塀が破損）
▽三田市＝不軽院（仏具等が破損）
▽多紀郡・氷上郡＝合計七カ寺あるが、いずれも被害は軽度で、仏具等の破損で済んだ
▽加西市＝安国寺別院（本堂に亀裂が入り、墓石の大半が倒壊）
▽また教会・結社のうち、宗務院に被害の報告があったのは次のとおり。神戸市須磨区＝神戸教会（全壊）。神戸市

兵庫区＝妙栄教会（屋根が落ちる）。神戸市中央区＝妙神教会（壁が傷む）。加西市＝妙徳教会（屋根が落ちる）。加西市＝立正教会（少し破損）。伊丹市＝妙興教会（少し破損）。

時宗

被災寺院救援を決める

●兵庫県南部地震の被災者救援のため二十一日、常議員会が開かれ、被災した寺院に宗・本から義援金をおくることを決定した。また全寺院に呼び掛けて義援金を集めることにした。義援金の贈り先については未定。二十五日開かれた教区長会議でこの決定を伝え、協力を仰いだ

▽宗門の末寺は兵庫県に十カ寺ある。そのうち神戸市の六カ寺、尼崎市の一カ寺が被害を受けた。被災した寺院と被災状況は以下の通り

▽真光寺（渡部良証住職、神戸市兵庫区）＝一遍上人御廟五輪塔、塀倒壊。本堂屋根瓦落下、ガラス割れ。鐘楼堂倒壊。観音堂も傾斜して使用不可能

▽葉仙寺（後藤俊雄住職、同市兵庫区）＝本堂屋根瓦落下、庫裡半倒壊、ブロック塀倒壊

▽長楽寺（江原浄然住職、同市須磨区）＝日本堂内陣壁落下、墓石十基余り倒れる

▽普照院（福島邦祥兼務住職、同市長田区）＝本堂屋根瓦落下、福島住職は富山の自坊・浄禅寺にいて十分な被害状況の把握はまだできていない

▽荷松院（秋山文善住職、同市兵庫区）＝本堂、庫裡的建具が動かなくなる

▽満福寺（井上良憲住職、同市兵庫区）＝墓石倒れる

▽善通寺（海老原善雄住職、尼崎市）＝本堂内陣内壁落下。昨年五月に葺き替えたばかりの庫裡屋根瓦、梁、玄関、壁落下、柱が折れる。観音堂壁落下。山門の柱が敷石からはずれる。

社説

大震災は仏の啓示

－信心で転禍為福を－

（一）

一九九五年一月十七日突如として起きた阪神大震災（兵庫県南部地震）による被害者の方々に心から御見舞い申しあげるとともに私どもとして支援の至らなさを痛感する次第です。

本紙の記者たちは車の不通の所を歩いて取材と慰問におもむいたが、その惨状は聞きしにまさるものがあつたという。

私どもの方は直接の災害は僅少にとどまったものの、従業員のうち住宅を全壊した者、半壊した者、たんすが胸の上におちて肋骨を折るなどの受難にあつた者もあり、身近にこの震災の恐ろしさを知らされた。

報道によると、判明しただけで直接の死者は五千人をこえた由、まことに哀悼にたえない。

（二）

ここに、このような大きな被害と災難を空しくしないよう、そして二度とくり返さないように今こそつづさに冷静な反省と点検をとげたいものである。治にいて乱は忘れやすく、京大の地震学の某教授はこのような地震の発生を再三警告したといわれるが、マスコミも一般の人々もそれに留意する人はほとんどいなかったという。先憂後楽という戒めもあるが、後憂後悔でも仕方がないからこのいたましい天災、人災を真正面からうけとめて今後の都市設計はもちろんのこと、わが家の、いや私個人の生活の再構築を考えたいものと願う。

今度の地震で人々が思い知ったのは現在のことはいざ知らず、明日は何が起こるか全く見当がつかないということではなかろうか。

深遠なる仏典の教義によれば諸行無常、万象流転、一切是空、ということのようである。まことに三世、三界を通じて明らかな上記の三大テーゼを少しでもわが身にひきかけて考え直し、出直することがひいては地域の、そして社会、国家の将来の建設にもつらなるのではないか。ここにこの突然の大災害をいたましい仏天の警告と受容して明日の再建をはかるとき、初めて禍を転じて福となすこともできよう。親鸞は教行信証行巻において、大悲の願船に乗じて光明の広海に浮かみぬれば、至徳の風静かに衆禍の波転ず、とさとしている。ここに衆禍の波転ずとは、自分にとってもろもろの禍が起こるが、それらは大悲の光明に照らされるとき、速やかに無明の闇は破られて幸福の波に転変するというほどの意と解することができよう。

(三)

今日、経済大国といわれるなかで、人々はともすれば物質文明の恩沢におぼれ、現実主義のもと、官能の享楽生活へ走ろうとする傾向にある。ここに仏説を今日的なものとして諸行無常、万象流転、一切是空の諦念を発起したものである。

これをさらに要約するならば、各自が我が死と対面せよとの教訓のようにも推察される。人々がわが死と対面するとき、いかなる激しい煩惱もしつこい情欲もすべては氷解するにちがいないからである。大死一番して地上に残るものは何もないはずである。

ところで大乘仏教国といわれながらわが国の義務教育ではもちろん、上級の学校においてもほとんど生と死をさす宗教科目がない。そのような背景もあってのことだろうか、いまだに脳死、臓器移植などの正しい認識に乏しいばかりか、がん告知さえ充分でかかねる実情にある。

いつ死が私自身にふりかかってくるかもしれないという仏天の啓示を、ぜひわが国でも死の準備教育のなかでさとしてほしいものである。もしそれが寺院においてできないのであれば、家庭で、あるいは学校で行なってもらいたいものである。

死は一部のわが国の古い因習の奥にたたまれているように決して不浄、不吉なものではない。それどころか、これはそのとらえかたによってはまたと得がたい尊厳ないのちの訓戒なのである。しかも死はつねに生と対立するものでもない。これについては、大谷大学の初代学長（監）清澤満之師がその手記の『臘扇記』のなかでつぎのように述べている。

「吾人は死せざるべからず、吾人は死するもなお滅せず、生のみが吾人にあらず、死もまた吾人なり、吾人は生死を並有するものなり」

と。ここにおいて仏教者は生死を達観することにおいて生死をこえているともいえよう。今回の天災、地災においてこのような宗教精神が少しでも学習される縁起ともなれば、と念願しつつ稿を結ぶ次第である。

なお末筆ながら被災者の方々に重ねて御見舞い申しあげ、御健勝のほど祈念いたします。

真言

本山で犠牲者慰霊法会

●**高野山** 宗団は今回の兵庫県南部地震犠牲者の慰霊法会を三十一日に、総本山金剛峯寺大伽藍金堂で稲葉義猛管長の導師のもと厳修する。職衆として内局役員や本山職員らが出仕する予定。「この度は地震により、たくさんの尊い命が失われました。いまだ被害が増大しているとの報道が入って来ますが、御尊霊に対しまして、高野山上にて追悼の法会を開くことになりました」としている。これは二十四日の内局会で決まったもの

▽今回の震災は大阪府内の寺院にも被害をもたらした。とくに被害が大きかったのは大阪市港区築港・釈迦院で、本堂が倒壊寸前ようだ。また茨木市東福井・大乘寺（諸堂や墓石に被害）、豊中市服部本町・不動院（本堂瓦が落ちる）、池田市神田・常福寺（外壁、地藏堂半壊、鐘楼堂が横に動く）、池田市鉢塚・一乗院（屋根や壁が落ち、本堂は使用不可）、池田市綾羽・高法寺（本堂の内壁と天井が崩れ、瓦落ち、門が横に動く）、池田市鉢塚・釈迦院（壁崩れ

る)、豊能郡豊能町・法輪寺（外壁崩れ、本堂のしっくいが落ちる）など。

会館に檀信徒の被災者三人

●**智山派** 兵庫県南部地震の救援対策について、地震から八日目の二十五日、智山派宗務庁で開かれた真言宗各派大本山会の新年総会の席上、上村正剛宗務総長は、震災救援について以下のように報告した。「総本山諸堂、建物にも多少被害が出ている。また、関係寺院は幸い神戸方面には無い」と。上村宗務総長は、二十日に中山寺、二十四日に須磨寺を見舞った。また、約六十人収容可能な智積院会館に本山檀信徒の被災者の避難受け入れを準備した。同派檀信徒は神戸に十五人あり、そのうち一世帯三人が二十三日に会館に入り、寄住している

護国寺で募金活動

●**豊山派** 大本山護国寺（岡本永司貫首）では、兵庫県南部地震の被災者のために、読売光と愛の事業団を通して百万円、宗派を通して五十万円をおくった。この後も、職員や檀信徒に呼び掛けて募金を続けている
▽兵庫県南部地震では、豊山派の寺院は兵庫県下には一カ寺もないので、大きく被災した寺院はなかった。京都でも大きな揺れがあったので、乙訓寺（川又海淳住職）では、本堂の壁が一部落ちるなどの被害があった。

震災で三カ寺が倒壊

●**東寺派** 兵庫県南部地震は同派の神戸市内の末寺にも多大な被害をもたらした。弘法寺（灘区中原通）は八割方倒壊し、西川章信住職は岡山県に身を寄せている。苅萱寺（兵庫区会下山町）と遍照光院（兵庫区西柳原町）は全壊した。同派では、児玉公慶庶務部長が自坊のある和歌山から被災地域に入り、現状を把握するとともに見舞いを行っている。また、北川亮暁宗務長は「見舞金のことも含めてできる限りのことをするつもりだ」と述べている。

真宗

光真門主も被災寺院へ

●**本願寺派** 二十七日午前十時三十分の時点で本山宗務所本部災害対策委員会調べによる今回の兵庫県南部地震による兵庫教区（土基謙教教務所長）の被災寺院数は二百二十五カ寺の寺院に及んでいる。また、寺族の犠牲者の数も従来の七人から二人増えて九人にのぼっている。新たに死亡が確認された犠牲者は、神戸東組覚浄寺（湊一雄住職、神戸市東灘区）の湊文子坊主（六五）、神戸東組安楽寺（山内義憲住職、神戸市灘区）の寺族、山内悠理子さん（一一）の二人。また、被災地域も当初は西宮市、尼崎市、宝塚市、神戸市、淡路島の一帯、組で言うと阪神東、阪神南、阪神西、阪神北、神戸東、神戸中、神戸湊、神戸西、北摂、神明、淡路の十一組であったが、さらに兵庫県南西部の播磨東（神戸市北区・美嚢郡・三木市）、高砂（加古川市・高砂市）、姫路南（姫路市）、姫路中（同）の四組にも多数の被害寺院が出ていることが判明した

▽二十七日、本山宗務所で大谷範子総裁臨席のもとに仏教婦人会総連盟（堤昭子委員長）の理事会が開かれ、冒頭に挨拶に立った松村了昌総長は、今回の兵庫県南部地震による本派兵庫教区の被災寺院、門信徒の救援についての協力を要請した。この中で同総長は、二月六日に開く臨時宗会（北條成之議長）で本堂が倒壊するなど大きな被害を受けた二百カ寺以上の被災寺院の復興を支援するための「協力金」の積み立てを行なう方針であることを説明、仏教婦人会への協力を呼び掛けた。この「協力金」は今回の震災だけでなく今後もこのような自然災害により被災寺院が出た際に宗派として迅速にその復興資金を無利子無利息で貸し出すことができるようにするためのもの。また、

この「協力金」のプールとあわせ、同総長は宗務所内に非常時に備えて救援物資を備蓄するための貯蔵庫も設けたいとの意向を明らかにした

▽大谷光真門主は、今回の震災で本派寺院や門信徒が甚大な被害を受けていることを憂慮しており、近く被災寺院を見舞う予定である

▽関東大震災を凌ぐ規模と言われる今回の兵庫県南部地震に対する全国の人々の関心度は非常に高いものがある。本派でも多数の寺院が集中する阪神地域が地震の直撃を受けたため、全国各教区や海外の各開教区から大量の救援物資や多額の義援金が本山の本部災害対策本部（委員長＝松村総長）に寄せられるなど非常な関心の高さを示している。また、被災者らの住居の問題がクローズアップされてくる中で近畿地方の寺院の中には被災者を受け入れを検討しているところもあり、寺族の中には「本願寺でボランティアを募ってほしい」「門徒会館や本願寺会館を被災者に開放してはどうか」など様々な要望を本山に寄せている人達もいるようだ

▽今回の震災で倒壊した庫裡の下敷きとなり亡くなった豊原大潤元総長（八六）＝西宮市・西福寺前住職＝の宗門葬が二月二十七日、本願寺会館で営まれる。総長経歴者の宗門葬が営まれるのは昭和六十年八月の故太田淳勝元総長の宗門葬以来九年ぶりのことである。

月田執務長が被災地へ

●**東本願寺派** 兵庫県南部地震災害対策本部長の月田彰英執務長ら本山職員が一月二十九日から被災地へ入った。初日は兵庫県明石市の西林寺（二階堂正純住職）を見舞い、三十日には神戸市兵庫区の神戸別院（華房嶺磨輪番）や大谷光紹法主が中学時代、過ごした神戸住吉にある大谷家の元別邸などを訪れた。三十一日には帰京の予定

浄土

三つの規程を柱に救援を

●**浄土宗** 浄土宗の成田有恒宗務総長は、十七日発生した兵庫県南部地震で兵庫教区、大阪教区を中心に宗内寺院に大きな被害が広がっていることから、このほど「浄土宗寺院災害特別互助規程」(宗規第一一号)の適用などの救援策を考慮していることを明らかにした

▽同宗では、こうした寺院災害を救援する規程として、同規程のほか、「浄土宗災害対策規程」(宗規第一〇一号)及び「浄土宗共済会規程」(宗規第五四号)などの規程があるが、成田宗務総長は、今回の兵庫県南部地震については、それらの規程のいずれも適用できるケースだとして、それらの三つの規程を柱に被災寺院の救済に乗り出す考えを明らかにしている

▽三つの規程のうち、「浄土宗寺院災害特別互助規程」は、政府が発令する災害救助法で適用された地域の所属寺院に対し、指定地域、適用期間、収支予算書、臨時宗費賦課金の一箇負担額をそれぞれ宗議会の承認を経たうえ、適用されるもので、「天災その他不可抗力により、寺院が被災し、一般賑恤のみにては、経営管理に支障を生ずる寺院の本尊護持と、教化の再興を本宗互助によって図る」ことを目的としている。ただ、同規程に定められた被災寺院に対する護持料は、「檀信徒全員が被災し、復興困難と認められるもの」に対して月額五千元、「檀信徒の八割以上が被災し、当分復興に長期を要するもの」に対して月額三千元、「檀信徒の六割以上が被災し、当分復興困難なもの」に対して月額二千元、と時代にそぐわない内容となっており、見直しが求められている。一月二十六日に開かれた災害対策会議でも、三月の定期宗議会で規程の改正案を提案したいとしており、定期宗議会の場で見直しが図られるものと思われる

▽一方、「浄土宗共済会規程」は同宗が独自に設けているもので、所属の寺院・教会が対象。共済事業は建物共済と福祉共済があり、今回の地震災害に適用されるケースは建物共済が中心。一口（一万円）当たり、五年間の保障となっており、保障額は火災による被害の場合が最高額六百万円、天災地変による被害の場合が最高額二百万円と

なっている。一口については強制加入となっているが、二口以上は任意加入で、三口まで加入できることになっている。同共済は浄土宗独自の共済であり、今回の場合は被災寺院の数があまりにも多いことから、プールされている資金に対する保障額がどの程度になるのか、今後の各被災寺院の災害調査が待たれる

▽また、「災害対策規程」については、二十六日の災害対策会議で同規程に基づき、総額三億円を目標に救援義援金の募金活動を展開することが決まっており、同日付で各教区長宛てに依頼状が発送されている。当局では、一応の目安として三月三十一日までに一カ寺三万円以上の募金をお願いしたいとし、寄せられた募金は兵庫教区災害対策本部を通じて被災寺院（檀信徒を含む）に見舞金として送りたいとしている

▽浄土宗の七大本山では、兵庫県南部地震で大きな被害を受けた被災寺院への救援策を協議。宗務庁を通じて被災寺院に対し、各々百万円の義援金を送ることを決め、順次、宗務庁に義援金を届けている。また総本山知恩院でも、大本山に歩調を合わせて百万円の義援金を宗務庁を通じて送ることを決めたほか、宗内各寺院の被災状況の調査が出た上で、独自に一千万円程度を見舞金として送りたいとしている

▽大本山善導寺（藤堂俊章法主）は、二十五日、宗内の被災寺院に対し、藤堂俊章法主名で見舞状を送った。見舞状の内容は次の通り。「南無阿弥陀仏 今回の阪神大震災には、貴寺が多大の被害を受けられましたこと、貴上人はもとより、ご寺族並びに檀信徒各位のご心痛いかばかりかと、ご推察申し上げる次第でありまして、謹んでお見舞い申し上げます。又、檀信徒各位の物心両面にわたる被害に思いを致しますとき、胸の痛くなるを感ずる次第でありまして、呉々もよろしく御伝え下さいませ。重きを転じて、軽く受けさして下さる陰に大悲の力添えを信じて、今後復旧にご尽瘁の程祈念申し上げますと共に、時下厳寒の砌とし充分ご自愛遊ばされますよう、はるかにご祈念申し上げます。当山におきましては、他の大本山と協議致しまして、少額ではありますが、ご支援の一助と思い宗務庁を通じ、義損金をお送りさせて頂きました。尚、当山に出来ることがございましたら、ご遠慮なく御申し出頂きたく、微力ではありますが御手伝いさせて頂く所存でございます。茲に書中乍ら心よりお見舞いと致します 和南」。

神戸の三カ寺で被災

●**禅林寺派** 兵庫県南部地震の救援活動は地元兵庫県宗務支所の青年会や婦人会などの各組織が立ち上がって、ボランティア活動に努めており、軌道に乗ってきた。本山でも地元の熱意に動かされて、早速五十万円の義援金を教友会（壮年層の会）に寄贈した。神戸市の本派三寺院の被害状況は、本山の派遣部隊の活動で、実態が把握された。建物の倒壊はそれほど深刻ではないが、兵庫区中之島二丁目の阿弥陀寺（澤木亮道住職）では墓地の塀や墓石が倒壊＝写真上【写真は省略】。兵庫区島上町二丁目の来迎寺（大西誠治住職）では塀や石碑など石、レンガ造りの建造物が倒れた＝写真中【写真は省略】。長田区片山町三丁目の善導寺（戸上直人住職）では瓦が落ち、壁にヒビがはいり、コンクリート塀が壊れている＝写真下【写真は省略】。

光明寺の被害予想以上に

●**西山浄土宗** 十七日に発生した兵庫県南部地震は総本山光明寺の諸堂の荘厳や境内の石燈籠、墓石の倒壊など大きな被害をもたらしたが、当局では二月の定期宗会にも、修復費用を予算化したいと被害状況の調査を進めている。二月十日をめどに各関係業者に修復費用の見積もりを依頼しているが、講堂、食堂、墓石の修理など既に見積書が出ているだけでも数千万円規模に上っており、見積書が出そろえば、見積金額はさらに増え、相当額に上るものとみられる

▽一方、同宗では各寺院、檀信徒に義援金の協力を呼びかけ、既に各寺院に依頼状を発送しているほか、本山職員、西山短大学生らが阪急長岡天神駅前やＪＲ神足駅前などで連日、義援金の募金活動を実施するなどの救援活動も展開。被災した檀信徒に上田良準法主直筆の見舞状を送るなどの措置を講じている。二月上旬には、川崎観随宗務総長が被災地域の中部第二宗務支所管内の第三、第四組の各寺院を見舞うことにしている。

節分会福扇祭を自粛

●**深草派** 総本山誓願寺（鶴飼慶範法主）では例年二月三日に「節分会福扇祭」を実施しているが、今年は十七日に発生した兵庫県南部地震の被災状況に鑑み、節分会福扇祭の諸行事を自粛することを決めた。一月二十九日に予定されていた福扇娘大会（前夜祭）を中止したほか、二月三日に予定される大和流御詠歌舞踊、井上流奉納の舞、豆まき、福引などの諸行事を自粛。これに代わって二月三日には阪神大震災被災者追悼会を厳修する。大般若転読祈願法要、扇供養法要については例年通り執り行なうことにしている

▽終戦直前に三河地方を襲った昭和二十年の三河大地震ですべての伽藍が倒壊したという経験を味わった深津實乗宗務総長は「私も昭和二十年の三河大地震を経験したので、他人ごととは思えない。被災者の皆様にお見舞い申し上げたい。私の自坊もすべての伽藍が倒壊したが、周囲の寺院がみんな同じような状態だった。復興したいと思って終戦直前の大震災で、日本全体が戦争で疲弊していた時期だったので、寺院の復興は後回しとなった。私の自坊も五十たった昨年、ようやくすべての伽藍の復興が完成を見たという状況だった。どうしても寺院の復興は後回しとなるために、深草派ではそうした経験に鑑み、寺院復興のための義援金を派内に呼びかけたいと考えている」と被災寺院を対象とした義援金の募金を派内寺院に呼びかけたいとしている